

めぐみイエス・キリスト教会

2020年7月26日(日)第四主日礼拝
週報「通算第516号」



2020年標題聖句

第 I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年7月26日 第四主日礼拝 午前10時
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌248「人生の海の嵐に」 p. 382

【交読文】 No.57コリント人への手紙Ⅰ第13章 p. 925

【賛美Ⅱ】 新聖歌259「聖いふみは教える」 p. 404

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.6「イスラエルがエジプトから」

【聖書朗読】 使徒の働き3章11節～16節(2017新約p. 237上段)

【礼拝説教】 《ソロモンの回廊にて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌162「ハレルヤ・ハレルヤ」 p. 232

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所「使徒の働き」3章11節～16節

3:11 この人がペテロとヨハネにつきまとっているうちに、非常に驚いた人々がみな、「ソロモンの回廊」と呼ばれる場所にいた彼らのところに、一斉に駆け寄って来た。

3:12 これを見たペテロは、人々に向かって言った。「イスラエルの皆さん、どうしてこのことに驚いているのですか。どうして、私たちが自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。

3:13 アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち私たちの父祖たちの神は、そのしもベイエスに栄光をお与えになりました。あなたがたはこ

の方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でこの方を拒みました。

3:14 あなたがたは、この聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、

3:15 いのちの君を殺したのです。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。

3:16 このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおり完全な身体にしたのです。」

●ポイント1.「ソロモンの回廊」とは？

■ヘロデの神殿の重要な建築物で、等間隔ですえられた2列の大理石の円柱によって支えられた屋根で覆われた回廊。ソロモンの名を持つこの回廊は、異邦人の庭の東壁に沿って建てられた。宮きよめの祭りの時、主イエスが、パリサイ人や律法学者たちに教えられた場所であった。

※ヨハネの福音書10章22節～23節「主が教えられた場所」(新約p.203)

10:22 その頃、エルサレムで宮きよめの祭りがあった。時は冬であった。

10:23 イエスは宮の中で、ソロモンの回廊を歩いておられた。

●ポイント2.「神はこのイエスを死者の中からよみがえらせ～」とは？

※マタイの福音書28章1節～4節・11節～15節「墓にて」(新約p.63下段)

●ポイント3. 「このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに」とは？

※ヨハネの福音書14章13節～14節「私の名によって」(新約p.214上段)

14:13 「また私は、あなたがたが私の名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。

14:14 あなたがたが、私の名によって何かを私に求めるなら、私がそれをしてあげます。」

※使徒の働き4章12節「シモン・ペテロの信仰の確信」(新約p.239上段)

「この方以外には、誰によっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

◎先週のメッセージの概要【立ち上がり、歩きなさい】

《午後 3 時の祈りの時間に、ペテロとヨハネは、教会に新たに加えられた兄弟たちを教導く為に宮に上って行きました。二人が異邦人の庭にあります「美しい門」に来た時、生まれつき足の効かない物乞いの男が、運ばれて来て、美しい門の横に置かれたのです。その人は、二人を見ると施しを求めたのです。ペテロは彼を見つめて言います。

「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と。

「私にあるもの」とは、主イエスのみ言葉であり、十二使徒への約束なのです。主は、十字架にかけられるまさにその日、このように言われました。『「まことに、まことに、あなたがたに言います。私を信じる者は、私が行なうわざを行ない、さらに大きなわざを行ないます。あなたがたが、私の名によって何かを私に求めるなら、私がそれをしてあげます。」』と。

主の言葉と約束こそがペテロの持つものであり、私に有るものなのです。

さて主イエスが、人をいやされた場面において、よく言われたことが、「あなたの信仰があなたを救ったのです。」と言う言葉でした。

それでは、物乞いの男には、その信仰があったのでしょうか。そのことを考えて見ますと、同じような場面が目に見えびます。それは「中風の人」のいやしです。この時、目を向けるべき事は、彼を運んで来た四人の人のことです。主は、その四人の信仰を見て、いやしを行なわれます。中風の人がいやされる為に、取りなしたのは、間違いなく四人の友人です。

さてそれでは、美しい門に置かれた物乞いの男の場合はどうであったのでしょうか。取りなしたのは、使徒であるペテロとヨハネです。それだからこそ、二人は彼の右手を取って立たせたのです。これこそが私たちクリスチャンに与えられているものです。それは取りなす事なのです。パウロは言います。「義人の祈りには大きな力がある」と。義人とは私たちです。》

◎お知らせ

※今日は鈴木師の誕生日です。67歳になりました。次回「第一主日礼拝」は、8月2日(日)教会にて行ないます。夜の第二礼拝はお休みです。また「聖書の学びと祈り会」は、毎週水曜日に各家庭にて行ないます。

